名門私学探訪⑲

広島女学院

未来への扉を開けるための次世代へとつなぐミッションとは

撮影／岩井 進　取材・文／橘　雅康（本誌編集長）

SPIRITS

チャレンジ精神あふれる生徒たちの心を支える大切なもの

初代校長の名を冠したゲーンスホール（写真上）は、礼拝だけでなく様々な文化行事でも活用されています。広島女学院教育の土台にあるのはキリスト教主義教育で、礼拝・行事・聖書の授業などを通じて、かけがえのない自分という存在を認め、他者を愛する人間性と豊かな感性を育みます。

世界的な芸術作品が廊下の一角に！

2021年6月～2022年３月の間、アイリスセンター２階には世界的なアーティスト、キース・ヘリングのブロンズ作品「アルター・ピース」を展示！1980年代からアメリカの現代アート界を牽引したキース・ヘリングは、ユニクロのＴシャツデザインでコラボしたことで知られています。この作品を所蔵するのは広島現代美術館で、改装休館の間、「どこかでゲンビ・サテライト展示」という取り組みとして、広島女学院で展示されました。展示期間中は美術部員たちが、顧問の先生に取り扱い方を学び管理するというから驚きです。

1886（明治19）年に砂本貞吉牧師によって創設された私塾・広島女学会は、聖書と英語を教える場所で、同校のルーツともいうべき存在です。米国南メソジスト教会の宣教師ランバス・ファミリーの協力のもとで創設されました。1998年にはルーツの近い関西学院や啓明学院とともに「ランバス関係姉妹校」として協定を締結。それぞれの特色教育を生かした交流が始まり、現在も有機的なつながりが続いています。

初代校長としてアメリカより迎え入れられたのが女性宣教師N・B・ゲーンス先生です。29歳の校長は、自らの実践を通して「自分を愛するように、まわりの人を愛しなさい」と説きます。同校を訪ねていつも感じるのは、生徒たちや先生方の和らいだ雰囲気です。それは、136年前から脈々と絶え間なく流れる校風なのです。

中庭に設置されているゲーンス先生の胸像のまわりでは、常に生徒たちがお弁当を食べたり遊んだり楽しげな声が今日も響く……

校長
渡辺信一 先生

探究から行動へ——広島女学院での学校生活

同校は広島市内中心部にあり、すぐそばには名勝・縮景園や広島県立美術館などが点在。市街地ながら、とても落ち着いた環境となっています。

いまから10年前、築46年の高校校舎は地上4階建ての新校舎に建てかえられました。中央にはライトコート（光庭）があり、季節体感型の校舎となっています。設計はレーモンド設計事務所によるもので、学びへの配慮と安全性、主張しすぎないデザインは、ミッションスクールの校舎を手掛けた著名な建築家アントニン・レーモンドの建築思想が息づいています。

近くには、丹下健三の設計による広島平和記念公園や、村野藤吾がデザインし内藤多仲が構造設計を担当した世界平和記念聖堂など、名だたる建築家による建物が数多くあります。学校の周辺に「平和」に関する建物が多いのは、もちろんこの地が特別な意味を持っているからです。

太平洋戦争末期、1945（昭和20）年8月6日の午前8時15分にアメリカによって原子爆弾が投下されました。広島の街は焦土と化し、爆心地から1・2kmしか離れていなかった広島女学院は、生徒・教職員330余名の犠牲者を出します。校舎施設は跡形もなく失われました。「ヒロシマの記憶を風化させることなく、語り伝えるというのは私たちの大切なミッションです」と同校の生徒たちは語ります。

同校には、平和や環境だけでなく、世界に目を向け様々な問題に気付かせてくれる体験活動が数多くあります。探究の芽が行動へとつながるアクティブな教育が大きな魅力となっています。

校長・渡辺信一先生は、こう語ります。

「このコロナ禍において、あらためて『学校』という場が持つ意味を考えさせられました。インターネットを使ったオンライン授業や、集団だけではなく個別での指導などは今後の学校教育の中でツールの一つとして活用されるでしょう。ただ、学びには伴走者が必要です。教職員や友人、保護者が一緒になって支えていく関係性は学校だからこそ育まれます。

指定校推薦で大学を受ける高3生たちの面談をすると、みんなが決まって『この学校で変われました』と言います。自分の意見や考えをしっかりと持つことができ、みんなに伝えられるようになった、と。中1からの『課題研究』や、中3からの『EP（エクステンシブ・プログラム）』など、生徒たちがより主体的に動くための取り組みがたくさんあります。生徒一人ひとりが成長する姿を、一人の伴走者としてこれからも見守っていきたいと思います。」

GLOBAL EDUCATION

広島女学院ならではのグローバル教育

生徒たちが主体的・対話的に取り組んでいる「Peace Studies（ピース・スタディーズ）」を中心に、「課外活動」として平和記念公園での「碑めぐり案内」や、同校の生徒たちが中心となって全国の高校生を集める平和会議「ピース・フォーラム」での議論など、グローバル教育を通じた活動は多岐にわたります。また、長崎や沖縄への研修旅行や模擬国連などの国内研修とともに、アメリカやオーストラリア、アジア各国への海外研修プログラムも豊富です。

高1「英語表現」(1)の授業（写真上）を担当するスミス先生。この授業では、論理的に英語で表現するアカデミックライティングの力をつけることを目的としている。そのために、少人数制でネイティブスピーカーの教員が担当し、授業や課題で常に英語で文章を書く機会が設けられている

平和学習への取り組みによって、フェリス女学院（神奈川）を始め、全国の高校生たちとつながる同校の生徒たち。広島平和記念公園を案内したり、一緒に討論したりすることも（写真上）。高2で実施する「沖縄修学旅行」は、沖縄戦の実相に触れるべくフィールドワークが中心。集団自決したガマを訪ねたり、白梅学徒隊の足取りを実際に確かめたり。沖縄尚学高校の生徒たちとの交流も行われる

世界市民として活躍するために

広島女学院の出身の方々には、国内だけでなく世界で活躍されている方もいます。同校がどのように国際社会で活躍できる女性を育むのか、グローバル教育推進部・部長の野中理恵先生（英語科）と、同副部長の加藤弘輝先生（地歴公民科）に話を伺いました。

加藤弘輝 先生

野中理恵 先生

「広島女学院が長年にわたって培ってきた平和学習に、スーパーグローバルハイスクール（SGH）の経験が合わさり、体験活動も含めとても幅広い取り組みになっています。本校では毎朝の礼拝で必ず聖書を読みますが、その中で世界に共通する価値観も身につけているように感じます。このコロナ禍で海外に出ることは難しくなりましたが、デジタル・グローバル化が一気に進み、生徒たちはインターネット上で簡単に世界と繋がることができることを体感しました。」（野中理恵先生）

「チャレンジキャンプなどでもそうですが、生徒たちが自主的にリーダーをしたり、グループのメンバーのことを想ったり、他者との関わり合いを通して、人間的にとても大きな成長をしていると感じています。自分と目の前の他者を大切にする、それが周囲の方々や県境・国境を越えた人たちとの繋がりの原点にあることを生徒たちはしっかりと理解しているように思いますね。」（加藤弘輝先生）

SCHOOL UNIFORM

大人気の制服は、文化祭やオープンスクールで試着のチャンスも！

2007（平成19）年にリニューアルした制服。よりエレガントな雰囲気が加わりました。デザイナーは同校出身の藤川浩子さんです。濃紺を基調としたブレザースタイルですが、中学生の方はボレロのような丸みのあるシルエットが特徴となっています。中学生は赤、高校生は水色のリボンがアクセントに。

中学生のブレザーの下はジャンパースカートで、肩から胸にかけての赤糸のステッチがかわいい。高校生にはユニバーサルデザインを採用しパンツスタイルもOK。他校に比べてスラックスの生徒が多い印象

女学院オリジナルのすごろくと、PTA手芸製作委員会のみなさんが制服をリメイクして作った人形

LUNCH TIME & AFTER SCHOOL

生徒それぞれが好きな場所で気分をリフレッシュ！

昼休みは、みんなと一緒に教室でお弁当を食べる生徒が圧倒的に多く、食堂で販売しているテイクアウト用の「鶏のトマトソース丼」や日替わりの「元気うどん」（豚肉と根菜類がたっぷりのあんかけうどん）が人気でした。運動系にしても文化系にしても、とにかく活発な同校のクラブ。中学生は約90%の生徒たちが加入しています。昼休みの図書室では、高校図書委員たちが集まり、『図書館便り』の製作準備をしていました。

体育館のメインフロアは新体操部、バスケットボール部、バレーボール部で練習スペースをシェア。下はとても凛々しい剣道部の面々

空き時間や放課後に使える自習室はブース型。デスクパーテーションは半透明で、程よくパーソナルスペースを確保

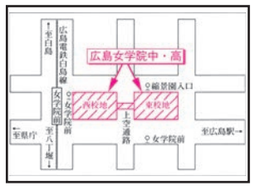
麺類の種類もいろいろ！

広島女学院　DATA

http://www.hjs.ed.jp/

●〒730-0014 広島市中区上幟町11-32
●TEL 082-228-4131

毎年、700名以上もの志願者を集める同校。在校生はもちろん、先生方の生き生きとした姿が好印象を与えている。信頼ある関係のもとですごす中高6年間は格別なものに。



●交通／JR山陽本線・芸備線「広島駅」徒歩12分。「広島バスセンター」下車、徒歩15分。

中3「生物・地学」（担当・山崎先生）では、無性生殖と有性生殖など染色体の受け継がれ方について学ぶ。遺伝子の本体とは何だろう、DNAの構造もちゃんと理解できたかな

中1「聖書」（担当・刀祢館先生）では、クリスマスのプレゼントの真の意味について考えた。同校では卒業していく高3生が新入生のために聖書袋を作りプレゼントするのが伝統になっている。直接顔を合わせることがない先輩とも、聖書を通してつながっていることを感じる

他者との対話を通じて、「命」について考えるのは、高2「保健」（担当・今田先生）

加藤先生が担当する高2「日本史」の内容は、豊臣秀吉による天下統一事業について。授業中に見せる生徒たちのまなざしは真剣そのもの。表現力がとても豊かで、あらためて生徒たちの探究能力の高さがうかがえる

生徒たちの見せる表情は実に多彩。生き生きとした姿がとても印象的

LESSONS

科目自由選択制度で多様な進路ニーズに対応

同校では、中1から高1までは大きなコース編成をとりません。高2から「国公立文系」「国公立外語系」「国公立理系」「私立文系・芸術系」というかたちとなり、高2では13単位、高3ではなんと13〜21単位が選択科目となります。一日の時間割の中に空きゴマ（ブランク）ができ自習時間になる生徒もいます。毎年のように東京大学や京都大学への進学者もいて、地元広島大学を含む国公立大学の合格率は65%近くにも及びます。

「音楽」の授業は、目前に控える讃美歌コンクールに向けて練習。中1の練習風景（担当・福岡先生）と、中2のクラスで指揮についてアドバイスする星野先生

右の写真は、濵岡先生による高2「地理」の授業